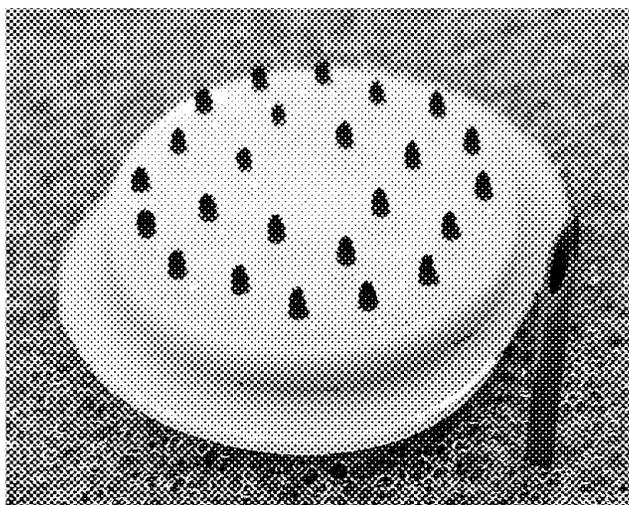


# 経皮吸収 薬剂量 3倍超

## コスメデイ製薬が微細針

【京都】コスメデイ製薬（京都市南区、権英淑社長）は、2027年内をめどに、薬剤の搭載量を同社従来品比3倍以上に高めたマイクロニードル（MN）を開発する。従来のMNは、薬剤を内包するか塗布するかしており、薬剤の搭載量が限られていた。コスメデイ製薬が新たに実現を目指すのは、MNを数本組み合わせた空間に、薬剤を搭載するデバイス。このデバイスを開発した上で、医薬品メーカーなどと協力して新薬の開発を目指す。

MNは微細な針で、一分を吸収させる技術。皮膚から薬剤や有効成分をこれまで以上に搭載可能な



空間マイクロニードル試作品（左）と注射針の比較

薬剤の量は、直径1ミリ当たり1ミリの以下だった。コスメデイ製薬が新たに開発するのは、直径1ミリ当たり3ミリ以上の薬剤を搭載できる「空間MN」と呼ぶデバイス。

コスメデイ製薬はMNを化粧品から実用化粧品に、空間MNは化粧品用MNより深い真皮層に薬剤を届けられるようにする。そのため、空間MNでの投薬に使う「アプリーケータ」と呼ぶデバイスも開発する。片手で持てる大きさにする予定。誰がいつ投薬しても、

一定の深さに空間MNを刺せるようにする。

空間MNの完成後、空間MNに薬剤を搭載した新薬の開発や、当局への申請を進める計画だ。医薬品メーカーや研究機関と協力するなど、新薬の開発や販売における体制は今後詰める。MNは低侵襲で真皮層に薬剤を投与可能な新規デバイスとして、実用化への期待が高まっている。コスメデイ製薬は京都薬科大学発ベンチャーで、経皮吸収治療技術に特化した研究開発を手がけている。